

船舶インシデント調査報告書

平成22年11月18日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委 員 横 山 鐵 男（部会長）
 委 員 山 本 哲 也
 委 員 根 本 美 奈

インシデント種類	運航不能（機関損傷）
発生日時	平成22年5月5日（水、祝日） 16時25分ごろ
発生場所	石川県金沢市 金沢港西防波堤灯台から真方位210° 2.2海里付近 （概位 北緯36° 36.8′ 東経136° 34.7′）
インシデント調査の経過	平成22年5月11日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	モーターボート ミノリー丸、5トン未満 244-14386石川、個人所有 6.81m (Lr) × 2.44m × 1.32m、FRP ガソリン機関、84kW、平成5年9月9日
乗組員等に関する情報	船長 男性 53歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 平成10年10月5日 免許証交付日 平成15年9月17日 （平成20年10月4日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船外機内部の1シリンダ又は複数シリンダにおいて、ピストンとシリンダライナが焼損した。
インシデントの経過	本船は、船長ほか1人が乗り組み、魚釣りを行ったのち、係留地に向けて金沢港沖を速力18～19ノット（kn）で帰航中、平成22年5月5日16時25分ごろ、船外機が異音を発するようになり、船長が回転を下げた直後に停止した。 船長は、船外機が停止後、始動用電動機で再始動を試みたが、始動しなかった。 本船は、船外機を始動できないことから、海上保安庁に118番通報して救助を求め、18時00分ごろ、来援した巡視艇にえい航され、係留地に帰着した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 1、視界 良好 海象：穏やか
その他の事項	船外機は、1年前にも本インシデントと同じような事態となったことがあり、開放したところ、潤滑が不良となってピストンとシリンダライナが焼き付いていたので、修理を行った。 船外機の連続最大出力時の速力は、約26knであった。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	なし あり なし 本船は、金沢港沖を係留地に向けて帰航中、船外機が、機関内部の潤滑が不良となってピストンとシリンダライナが焼き付き、停止した可能性があると考えられる。 本インシデント後、船外機は、船体と共に廃棄処分され、開放点検されなかったため、ピストンとシリンダライナが焼き付いた状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本インシデントは、本船が、金沢港沖を係留地に向けて帰航中、船外機内部の潤滑が不良となったため、ピストンとシリンダライナが焼き付き、船外機が停止したことにより発生した可能性があると考えられる。	